

07 - 08 年 育成調教方針

- 人馬の信頼関係を築くことで、取り扱いやすくマナーのよい馬になるように教育する。
- 血統、発育状況、痼疾、性差等を考慮して、馴致開始時期や運動量を決定する。なお馴致の前には、口腔内のチェックにあわせ狼歯を抜去する。
- 測尺値やボディコンディションスコアを参考として馬体の成長を把握し、運動内容をあわせて飼料給与を調整する。
- トレーニング障害の早期発見に努め、馬体の未成熟馬や跛行馬は、コンディションにあわせて調教メニューを組む。
- 定期的に装蹄判断を実施し、肢勢に適合した装削蹄を行う。また、適切な時期に蹄鉄を装着し、セール時には四肢装蹄で臨む。
- ゲート練習は騎乗馴致にあわせて開始し、十分に時間をかけて、馬に理解させながら行う。
ゲート試験は馬に調教ストレスのかからないうちに実施する。
- 日高育成牧場の多様な調教施設（800m 屋内トラック、屋内坂路馬場、グラス坂路、1600m ガートトラック）を使い分ける。
 - ・ 800m屋内トラックでは十分な基礎体力を養成するために、スピード調教開始前まで、毎日同じスピードの調教を課し、徐々にベースのスピードをあげていく長め距離の有酸素トレーニングを行う。
 - ・ 延長した屋内坂路馬場における調教は非常に効果があったと考えられるので、本年においても、可能な限り早い時期から週 2 日程度、屋内坂路馬場での調教を行う。
 - ・ 屋内坂路馬場でスピード調教を行った後に、1600m ガートトラックで最終的なスピード調教を行う。
- 隊列（単走、併走、集団調教:2 列縦隊）を使い分ける
 - ・ 単走：真直ぐなハミ受けを作るとともに、後肢を十分に踏み込ませることで、背中や頸を十分に使った全身の筋肉を動員できるフォームを作る。
 - ・ 併走：スピード調教時の基本、併走で闘争心を養う。
 - ・ 集団調教：前後左右に馬をおくことで、馬ごみに慣らすとともに、馬の後ろで我慢することを覚えさせる。
- 騎乗者は担当馬に固定するのではなく、乗り替わりを実施することで、騎乗者の技術向上につなげるとともに、JRA 育成馬全体の走行フォームの改善を図る。
- 常歩はバイタルウォーク（全身を使った闊達な常歩）を行う。
- 調教前に毎日、ウォーキングマシンを活用して、常歩での運動量を増す。
 - ・ 時間 30 分、速度：6.0Km/h（1 月まで）、6.5Km/h（2 月から）
- セールの騎乗供覧時においては、単走で馬を行く気にさせた中で、必要以上に手や鞭で馬を追わずに、最終 2F を F13-12（公表は F13-13）での走行を目安とする。